平安神宮は、古都京都の歴史的遺産を讃えています。装飾が施された建物や、美しい庭園は、一般に公開されています。平安神宮は、1000年以上続いた都である平安京の最奥部の一角を8分の５の大きさで復元したものです。

平安神宮と、美しい風景が広がる神苑を巡り、京都の豊かな文化的遺産を感じてみましょう。

**平安神宮**

平安神宮は、8世紀後半から19世紀半ばまで続いた、日本の首都である平安京の平安遷都1100周年を記念し、1895年に創建されました。ここには、平安時代（794～1185）の最初の天皇である桓武天皇（737～806）と、平安京最後の天皇となった孝明天皇（1831–1866）が祀られています。

*古都を模した造り*

平安神宮は他の神社と異なり、古都平安京の行政の中心地であり、天皇が国事を司っていた天皇御所の正庁・朝堂院を模して建設されました。華やかな装飾が施された広間や建物は、砂利が敷き詰められた広々とした中庭を中心に左右対象に配されています。大極殿（外拝殿）や応天門（正門）を含む建物の幾つかは、国の重要文化財に指定されています。鮮やかな朱色に塗られた建物は、中庭の白い砂利と周囲の緑樹に対して見事なコントラストを描いています。

*庭園を巡る*

神社の裏手には、広さは30,000平方メートルにも及ぶ、四つの美しい景観の庭園が広がっており、日本特有の様式を取り入れ、自然とその美を讃えています。それぞれの庭園は異なるデザインで作庭されていますが、全てが慎重に統合されており、一つの大きな庭園にも見えます。これらの庭園は一般に公開されており、約40

分ほどで回ることができます。神苑の入り口は、神宮内の中庭にあり、拝観料がかかります。

*復興の象徴*

平安神宮が創建されたのは、首都の東京移転を理由の一つとする、京都の経済状況の低迷と人口減少が生じた時でした。平安神宮の創建は奥深い京都の歴史を祝福し、経済成長の促進を促す一連のプロジェクトの一環でした。最新の技術の実演などが行われ、新産業の誘致を目的とした、京都における最大級の博覧会が開催されたのと同じ年に平安神宮は完成しました。その後、何年にもわたり、京都の経済は向上し人口も増加していきました。京都は再び壮大な都市として返り咲き、平安神宮は京都復興の永続的な象徴となりました。

*平安神宮へのアクセス*

平安神宮は京都の岡崎地区に位置しており、東西線東山駅から徒歩で10分、京阪線神宮丸太町駅から徒歩15分ほどの所にあります。

**平安神宮の庭園**

平安神宮の庭園は国指定名勝に定められています。散策路で繋がれた四つの美しい庭園から成り立っており、一つひとつの庭園はそれぞれ、平安時代（794〜1185）、鎌倉時代（1185〜1333）、桃山時代（1568〜1603）そして江戸時代（1603〜1867）の異なった時代に着想を得ています。庭園には、京都御所から移築された美しい建物や、興味深いデザインが用いられています。また、座って休憩をしながら庭園を眺められる場所が設けられるなど、自分のペースで景観を楽しんでもらえるよう設計されています。

*四季の花々*

神苑では、ほぼ一年を通して花が咲いています。四つの神苑にそれぞれ植えられている桜のほとんどは、４月に花を咲かせます。複数植えられている品種の中には、八重紅枝垂桜という名前のものがあり、他の桜と比べ、深みのある色をした花を咲かせます。その他の季節に咲く花には、アイリスやツツジ、梅、藤、そして睡蓮などがあります。

*野生動物*

それぞれの庭園は、鳥類や蝶を始め、魚や亀、その他の様々な池に生息する野生動物の住処となっています。中神苑の池の横に佇む質素なお茶屋や、東神苑の池に架かる装飾の施された屋根のある橋殿は、休憩の合間に花々や野生動物を楽しむのに最適な場所です。庭園では、サギや、カワセミ、メジロやシジュウカラを観察することができます。

*著名な作庭家の作品*

庭園は1895年から1981にかけて造られました。南神苑（1981）は一番最近に造られた庭園です。西神苑（1895）と中神苑（1895）、そして東神苑（1916）は、それよりかなり以前に京都の著名な作庭士、七代目小川治兵衛（1860–1933）によって造られました。彼は水と石を使った作庭で有名で、近代日本庭園の先駆者として知られています。平安神宮の庭園には、彼の初期の作品の例などが含まれ、近くの疎水から水を引き、稀に見る大きな池を造るという事は、当時の概念では革新的なものでした。

*歴史を感じる庭園*

庭園内に見られる看板には、植物やそこに生息する生き物、庭園の様式などの情報が、京都と日本の歴史の詳細と共に英語で紹介されています。庭園を訪れることで、京都の歴史的側面に触れることができます。1868年以降に首都が東京移ってから衰退の道を辿った京都の運命や、庭園を満たす水を引いている19世紀後半に建設された疏水、そして京都で開通した初の水力発電による路面電車がその例です。

***平安神宮のお祭りとイベント***

平安神宮では一年を通してイベントやお祭りが開催されています。その中でも最も大きいのが時代祭で、お祭りのハイライトは、京都御所から平安神宮まで続く大行列です。この行列では、何百人もの人たちが、8世紀から19世紀までの当時を再現した衣装を着て行進します。時代祭は毎年10月22日に開催され、行列は午後12時から始まります。

その他の毎年恒例のイベントには、6月に行われる能劇があります。この能劇は平安神宮の敷地で、夜に篝火が焚かれた中で行われます。能劇を見るにはチケットが必要で、チケットは通常は4月に発売されます。